



iSCSI QoS コマンド

この章は、次の項で構成されています。

- [iscsi enable](#) (2 ページ)
- [iscsi flow](#) (3 ページ)
- [iscsi qos](#) (5 ページ)
- [show iscsi](#) (6 ページ)

iscsi enable

サービス品質プロファイルを Internet Small Computer System Interface (iSCSI) フローに適用できるようにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **iscsi enable** コマンドを使用します。デフォルト設定を復元するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

構文

iscsi enable

no iscsi enable

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

無効

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

iSCSI QoS を有効にするには、**iscsi enable** コマンドを使用します。

ACL がインターフェイスにバインドされ、フレームが iSCLI ルールと ACL ルールの両方に一致する場合、iSCSI ルールのみがこのフレームに適用されます。

例

次に、iSCSI QoS をグローバルに有効にする例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# iscsi enable
```

iscsi flow

iSCSI フローを定義するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **iscsi flow** コマンドを使用します。iSCSI フローを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
iscsi flow default | {tcp-port [ip-address]}
```

```
no iscsi flow [default | {tcp-port [ip-address]}
```

パラメータ

- **default** : デフォルトの IPv4 フローを復元します。
- **tcp-port** : iSCSI ターゲットが要求をリッスンする TCP ポート番号を指定します。(範囲 : 1 ~ 65535)
- **ip-address** : iSCSI が要求をリッスンする IPv4 アドレスを指定します。

デフォルト設定

既知の TCP ポート 3260 と 860 の 2 つの iSCSI IPv4 フロー。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

各 **iscsi flow** コマンドで、次の 2 つのサブフローを含めて iSCSI フローを定義します。

- イニシエータからターゲットサブフローへ : このサブフローは、*tcp-port* 引数で指定した宛先 TCP ポートと、*ip-address* 引数を設定した場合は、設定した宛先 IP アドレスで分類されます。
- ターゲットからイニシエータのサブフローへ : このサブフローは、*tcp-port* 引数で定義した送信元 TCP ポートと、*ip-address* を設定した場合は、設定した送信元 IP アドレスによって分類されます。

最大 8 つの iSCSI フローがサポートされます。

iSCSI のデフォルト設定を復元するには、**iscsi flow default** コマンドを使用します。

同じ TCP ポートの場合は、**iscsi flow tcp-port** コマンドを使用するか、またはいくつかの **iscsi flow tcp-port ip-address** コマンドを異なる IP アドレスで使用できます。

iscsi target port tcp-port ip-address コマンドで定義した iSCSI フローを削除するには、**no iscsi flow tcp-port ip-address** コマンドを使用します。

iscsi flow tcp-port コマンドで定義した iSCSI フローを削除するには、**no iscsi flow tcp-port** コマンドを使用します。

デフォルトの iSCSI フローを削除するには、**no iscsi flow tcp-port** コマンドを使用します。

デフォルトのすべての iSCSI フローを削除するには、**no iscsi flow default** コマンドを使用します。

すべての iSCSI フロー（デフォルトのフローを含む）を削除するには、**no iscsi flow** コマンドを使用します。

例

次に、iSCSI フローの 4 つのペアを定義する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# no iscsi flow default
switchxxxxxx(config)# iscsi flow 1200
switchxxxxxx(config)# iscsi flow 1201 1.1.1.1
switchxxxxxx(config)# iscsi flow 1201 1.1.1.10
switchxxxxxx(config)# iscsi flow 1201 101.12.21.410
```

iscsi qos

iSCSI フローに適用するサービス品質プロファイルを定義するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **iscsi qos** コマンドを使用します。デフォルト設定を復元するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
iscsi qos {[vpt vpt] [dscp dscp] [queue queue]}
```

```
no iscsi qos
```

パラメータ

- **vpt** *vpt* : iSCSI タグ付きフレームが割り当てられる VLAN 優先順位タグ (VPT) の値を指定します (範囲 : 0 ~ 7)
- **dscp** *dscp* : iSCSI フレームが割り当てられる DiffServ コードポイント (DSCP) を指定します (範囲 : 0 ~ 63)。
- **queue** *queue* : iSCSI フレームが送信される発信キューを指定します (範囲 : 1 ~ 8)。

デフォルト設定

- VPT は変更されません。
- DSCP は変更されません。
- キュー : 7

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

iSCSI フローに適用するデフォルトのサービス品質プロファイルを変更するには、**iscsi qos** コマンドを使用します。

注。1 つ以上のパラメータが必須です。

例

次に、iSCSI フローに適用するデフォルトのサービス品質プロファイルを設定する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# iscsi qos vpt 6 queue 8
```

show iscsi

iSCSI 設定を表示するには、ユーザ EXEC モードで **show iscsi** コマンドを使用します。

構文

```
show iscsi
```

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

このコマンドには、デフォルト設定がありません。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

次に、iSCSI 設定を表示する例を示します。

```
switchxxxxxxx> show iscsi
iSCSI is enabled
iSCSI vpt is not changed
iSCSI DSCP is 18
iSCSI Queue is 7 (default)
iSCSI Flows:
  TCP      Target IP
  Port      Address
-----
   860     0.0.0.0      default
  3260     0.0.0.0      default
   9876     0.0.0.0
  20002    192.111.220.110
  20002    192.1.3.230
  25555     0.0.0.0
```